



森重 地加男

東洋紡株式会社 代表取締役 副社長執行役員

東洋紡エムシー株式会社 代表取締役 社長執行役員

## 中東協力センター 50周年に寄せて

貴センターが創立 50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。これからも産業経済、貿易・投資分野において、日本と中東地域をつなぐ機関として、益々のご発展をお祈りいたします。

50周年の節目に際し、我が国にとってエネルギーの多くを依存している重要なパートナーである中東諸国との関係を強化していくことは非常に重要なミッションであり、貴センターがその取り組みにおいて中心的な役割を果たしてこられた長年の実績に敬服するとともに、弊社の中東における事業対して数々のご支援を賜りましたこと、この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

さて弊社におきましては、これまでにミッション派遣や企業化可能性調査、技術指導、小規模実証調査など、貴センターによる支援スキームを利用させて頂きました。特にサウジアラビアに水処理膜事業の現地拠点を設立するための企業化可能性調査においては、現地詳細投資環境調査を通じて、現地法制度に関する情報提供やサウジアラビアの監督官庁との折衝において、貴重な助言やサポートを頂きました。それらの支援を通じて、2010年にはサウジアラビアにて海水淡水化用の逆浸透（RO）膜エレメントの生産・販売、技術サービスを行うアラビアン・ジャパニーズ・メンブレン・カンパニー（AJMC）を設立することができました（本社・工場：ラービグ、営業所：リヤド）。設立後、ナショナルスタッフを日本に招致して、山口県岩国市のマザー工場において製造技術や品質管理手法を伝授し、またサウジアラビアのラービグ工場へも日本人技術者を派遣し、高品質な RO 膜エレメントを高い歩留まりで生産するスキルを技術移転してまいりました。

日本の水処理膜技術に対するサウジアラビア政府や民間の水処理事業者の期待は大きく、性能を更に高めた新しい RO 膜製品の開発や海水淡水化用途における省エネルギー性能の追求、またブラインマイニングや無排水化といった新しい用途、ニーズにおける膜技術の利用など、これまで以上に貢献できる領域は拡大していると考えております。政府系や民間の水処理事業者と共同で新しい膜技術の実証試験を AJMC が中心になって実施するなど、技術革新を通じてサウジアラビアの水事業の発展につながるよう、より付加価値の高い取り組みを今後も継続的に進めてまいります。事業拡大に伴う投資の拡大や人材の育成を通じた人的交流の促進、またサウジアラビアでの現地生産比率を高めることによる現地産業の多角化にも貢献していきたいと考えております。

世界中で発生している紛争、エネルギー供給の不安定化、環境問題の深刻化など、今後ますます世界情勢は厳しいものになると想定されますが、中東の国々との関係強化は貴センターがその中心的な役割を果たされ、重要なミッションを達成していかれますことを祈念いたします。引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

